

# 小児の脊柱側弯症について

## ■症状



せぼね（脊椎）が柱状につながった状態を脊柱といいます。ヒトの脊柱は7個の頸椎、12個の胸椎、5個の腰椎、仙骨、尾骨で成り立っています。

正常の脊柱は前あるいは後ろから見ると、ほぼまっすぐです。

側弯症では脊柱が横（側方）に曲がり、多くの場合脊柱自体のねじれを伴います。

側弯症が進行すると側弯変形による心理的ストレスの原因や腰痛や背部痛、肺活量の低下などの呼吸機能障害、まれに神経障害を伴うことがあります。

## ■病態

脊柱側弯症は構築性側弯と機能性側弯に大別されます。

・構築性側弯・・・進行するなら整形外科に紹介します。

・機能性側弯・・・**当院**での治療対象となります。

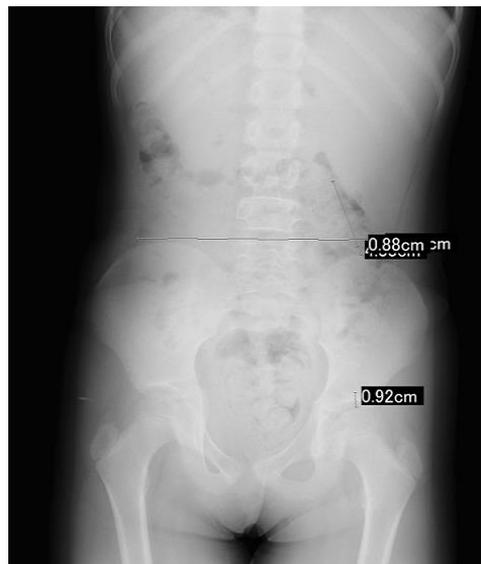
疼痛、**姿勢**、**下肢長差**などの原因による一時的な側弯状態で、弯曲は軽度で捻れを伴わず、その原因を取り除くことにより側弯は消失します。

## ■機能性側弯を引き起こす姿勢の例

- ・崩した正座（女の子座り）
- ・脚を組む
- ・頬杖をつく・・・等



## ■側弯のレントゲン画像



## チェック項目

側弯症を正確に診断するためには、最終的には医師によるX線（レントゲン）検査が必要ですが下記のような方法でご家庭でまずチェックをしてみてください。

1 立位検査 後ろ向きにまっすぐ立った、気をつけの姿勢をチェックします。

- ①耳の位置の高さに左右差があるかどうか？
- ②肩の高さに左右差があるかどうか。
- ③肩甲骨の高さと突出の程度に左右差があるかどうか。
- ④ウエストライン（腰の脇線）が左右非対称であるかどうか。

2 前屈検査 背中中の左右の高さに差があるかどうかをチェックします。

両方の手のひらを合わせ、肩の力を抜いて両腕を自然に垂らし、膝を伸ばしたままでゆっくりおじぎをさせます。肋骨や腰に左右のいずれかにもりあがりがあり、左右の高さに差があるかどうか。



日本側弯症学会編集、側弯のしおり『知っておきたい脊柱側弯症』より引用



側弯症が疑われたら、立位での脊柱のレントゲン検査が必要となります。レントゲン検査の結果で機能的側弯や治療を必要としない程度の構築性側弯症と診断されても、それが進行するかどうか十分注意し、経過観察する必要があります。